

多摩市立図書館本館再整備基本設計市民説明会 第2回 質疑応答

会場：消費生活センター 講座室

日時：令和元年7月8日（月）19時から21時まで

参加者：29人

No.	意見・質問	回答
1	床面積について	開架が2階：1,800㎡、1階：1,850㎡、職員等のフロアがMF：1,000㎡、BF：850㎡、合わせて5,500㎡を予定しています。
2	費用について	工事費は基本計画の中で約40億円を予定しています。基本設計においていくらになるのかは精査中ですが、40億円程度の歳出が見込まれているところです。その財源として、西愛宕小学校の売却費用の20億円を図書館の建設に充て、同じ教育目的の費用として資金を循環させたいと思います。
3	パートナーズとはなにか。図書館運営の手伝いをするのか。これだけ色々な機能があると、色々な種類のパートナーも必要。多様な人をパートナーにしてもらいたい。	市民協働で開かれた図書館の運営を目指しています。現在も、子どもや障がい者サービスのボランティアとしてご協力いただいている方には今後もお願いしたいと考えています。それに加えて、企画展示や広報、地域資料などをともに考えていただける方を募るなど様々なやり方があると思います。多摩市には様々な経験・知識・能力を持った方がいるので、いろいろな場面で協力していただきたいと考えており、パートナーの方々はどうなことをしたいのかについては、今後、ワークショップを行うなどして検討していきます。 また、パートナーをまとめる組織を市民の方に作っていただき、市はそのサポートをしていくことも考えられます。より良い図書館づくりに関わりたいという市民の思いをつなげ、図書館と対等な関係で活動する方々を「パートナーズ」という言葉で表現しています。
4	子どもの本を大人のエリアの隣に作るのが良いと思った。小学校4年生で点字を習うが、その学年で終わってしまう。視覚障がい者が自由にに入れて、子どもと点字の絵本を読むことでコミュニケーションが生まれる。そのようなことが出来れば良いと思っている。何かあったときに子どもとすぐにすぐ行けることで、視覚障がいの方とのつながりや見守りができる。	子どもと大人の本のエリアを近接させることで、親子利用がしやすい、話がしやすい環境をつくっていきたくて考えています。 また、視覚障がいについて、子どもも大人も理解があることが重要であると考えているので、今後検討していきます。
5	開架冊数が25～30万冊とあるが、墨字のものだけか。できれば点字の本もある程度置いてもらえれば視覚障がい者も図書館に通うことが出来る。	点字図書も含まれます。点字図書は、本館でも積極的に収集したいと考えています。また、点字付の子ども本を図書館で作成していますが、新しい図書館でも閲覧できる環境を作っていきたくて考えています。
6	センサー付の白杖を図書館で用意してほしい。危険な場所にくると音が出るようになっていて、立川の図書館にあった。このように視覚障がいの方に配慮していくことで図書館に通い、勉強ができるようになる。	音が出る杖については、今後検討していきたくて思います。
7	資料には「本館」「中央館」両方の名称が使用されているが、何か違いを意識しているのか	現在は「図書館本館」という名称を用いていますが、基本構想・基本計画の中では明確に「中央図書館」と記述しています。私どももうまく使い分けが出来ているわけではありませんが、ゆくゆくは「中央図書館」として整理していきたくて考えています。

No.	意見・質問	回答
8	今後の運営管理について、「知の地域創造」や「課題解決型」は図書館のテーマとなっている。従来の司書を中心とした情報提供だけの体制ではなくても間に合わず、レファレンスだけでなく役所の機能を合わせた、市民のニーズ、データ提供、自己実現のサポートを行い、パートナーズを含めた市民協働で、市民も自主的に頑張らなければいけないという課題がある。	自動貸出機を導入して貸出業務のセルフサービス化を図ることで、職員の負荷を減らし、その分をレファレンスや課題解決等に充てていきたいと考えていますが、様々なレファレンスに対応するためには職員の能力向上も必要です。市民協働を通じて、市民の方々と職員がともに勉強していく中で、職員の能力もアップさせていきたいですし、そのための職員体制についても継続的に検討していきます。
9	建築について、切り土をして建てることになると思う。国会図書館等で地下階を設置する例があるが、構造上難しいのではないか。	切り土をして建てる構造は難しくはなります。基本計画では地下1層で予定していたものを中地下階を設置し、地下を2層に重ねたことで、土を削る量を減らし、難易度が高いところも少なくしています。地下1層の場合は現在の2倍くらいの土を削ることになります。
10	多摩の図書館と同じように地下や斜面地の建設の実績はあるのか。	設計者に実績はございます。習志野市役所も斜面の土地に建てています。
11	切り土の費用は建築費用全体に占める割合が高いのではないか。土を運び出すにも費用がかかるのではないか。	切り土の費用割合は精査しています。土を運び出すには多額の費用がかかりますので、切り土の範囲や量を基本計画で想定するものより少なくする工夫をしています。
12	ランニングコストについて、どれくらいかかるかは今後の検討か。	今後検討していきます。環境配慮の一環として、高断熱のサッシを使用する点や、半分地下に埋まっていることにより寒暖の影響を受けにくい点など、ランニングコストを下げる効果を期待しています。
13	パルテノン多摩は水漏れにかなり神経を使っていたが大丈夫か。	水漏れがないよう十分に配慮して、設計・施工にあたりたいと思います。
14	良い図書館ができそうで喜んでいるが、図書館内に機能を詰め込みすぎな気がする。図書館の中だけではなく、公園の芝生等の環境も含めて整えてほしい。	図書館と大池の間の土地は整備予定地外ですが、図書館としても緑陰読書や公園と一体化した図書館の実現を目指しているところですので、公園緑地課と調整しているところです。
15	図書館の役割は紙媒体の図書を見るだけではない。紙媒体もなくなるわけではないが、紙媒体以外のネットや映像も含めた様々な情報について、研究し、盛り込んでいただきたい。	DVDやインターネットを館内で視聴するための貸出用のノートパソコンの導入や、インターネット用やオンラインデータベース用のパソコンを現状よりも充実させたいと考えています。
16	カフェについて、必要なものであると思うがスペースが狭く感じる。もう少し利用しやすく、長時間利用できるようなスペースだと良い。	カフェについては、館内で飲食しながら読書や勉強をしたいというニーズも多いので、カフェ事業者を入れることを想定して、厨房機器を設置する予定です。但し、館内で飲食できるエリアをどうするかについては、今後の検討課題です。
17	書架の置き方、どういう書架を選ぶか、見せ方、それにより全然使い勝手が違う。今日初めて細かい設計図を見たが今まで話し合ってきたことが書架を含め反映されるのか、ということが気になっている。	書架の詳細な検討は、実施設計段階です。蔵書構成や配架計画についても、内部で検討を進めているところで、今後、書架と蔵書をあわせて検討していきます。

No.	意見・質問	回答
18	先ほど、視覚障がいの方の発言で子どもとなり大人の本があって交流できるという話があり確かにそのような一面もあるが、障がい者向けサービスは1階の北側、2階の南側に子どもの本と間逆の位置にある。	録音・点字図書を含めて障がい者サービス分野は、1階が基本になるのは、作成・閲覧等が静寂系開架の方が適していると考えたためです。絵本を点訳したものなどの子ども向け資料は2階の予定です。点字雑誌や点字付資料の置き場については今後検討していきます。
19	色々な立場の方の声を、詳細な図面を示した上で丁寧に拾い上げるべき。このまま実施設計に入ってしまったら、何十年も長く使うものであるのに、使いづらい部分が出てくるのではないか。スケジュールが示されたが、なぜここまで急がなければならないのか。	基本設計は7月中にまとめ、8月からは実施設計に入ります。市民の方にはこの場も含めて、ご意見をいただきながら、我々もそれに対して丁寧に答えていきたいと考えています。
20	視覚に障がいがある人の多摩センター駅（小田急線、モノレール、バスターミナル）から図書館へのアクセス方法は、階段やエレベーターを使う必要があるのか。館内に入ってから障がい者サービスの場所までの経路、中央公園、レンガ坂を結ぶ通路のアクセスについて知りたい。	多摩センターから新本館までは、現在、途中までしか点字ブロック等の案内がない状態です。今後、歩行者専用道路の改修も計画されているところですので、関係課と調整していきます。
21	自宅や入院・入所の方が外に出づら立ち場の人への対応として、出張サービスなどで、パートナーズの方による代読、代筆は行われるか。	宅配サービスについては、現在でも障がい者サービスの1つとして行っています。図書館に来館するのが困難な場合には、希望する本をご自宅や入院している施設にお届けするサービスです。現在、このサービスは永山図書館が中心で行っていますが、永山にも残しつつ、新本館でも同様のサービスを展開したいと考えています。代読のサービスも、すでに行っているもので、これについても新本館でも行うことを考えています。代筆のサービスは、図書館利用のために必要な書類に限って行っているもので、今後も続けていきます。
22	公園内の点状・線状ブロックについて、率先して設置するようにしていくべき。それがないと視覚障がい者は図書館を利用することができない。図書館の中も点状ブロックがないため、ボランティアの介助がないと歩けない。視覚障がい者用の館内の案内について基本設計では反映されるのか。道路交通法に基づく点状ブロックは直線で置くことになっているが、図書館の形状はバナナ状、カーブをしているのであれば、まっすぐのもののはつかない。点状ブロックを貼る際には視覚障がい者の意見を聞いてほしい。たくさん貼れば良いというものではない。	点状・線状ブロックについて、関係課と調整していきたいと思います。また、図書館内については基本設計ではなく実施設計で検討する項目なので、障がい者のご意見に配慮しながら検討していきたいと思います。
23	カタカナ表記が多くわかりにくい。高齢者でも分かるような内容にしてほしい。	今後、なるべく注意します。

No.	意見・質問	回答
24	この建物は100年持たせるものだと思っているが、少なくとも20年、30年先を考えてほしい。高齢化がさらに進み、4割が高齢者になると言われている。40億円をかけてどういう投資効果が得られるのか。	40億円の投資対効果について、まさに今新しい時代を迎えている中で教育がどうあるべきかを問うたとき、図書館はハードの面については、ワクワクするような内容だと思いますが、それを支えるソフトの部分、主体となる職員の能力が十分に備えられているかということは、今後十分に検討し、高めていく必要があります。そこに市民の皆さんの参加があって、一緒に協働しながら育てていく、ということに図書館の価値が見出せると思っています。投資というよりも価値を見出していきたいと思います。皆さんのご協力がなければ何十年かけても何も変わらないし、皆さんのご協力と職員の頑張りがあれば、数年間で図書館は大きく変わってくると思います。そこに40億の価値を見出していきたいです。
25	「健幸都市」への考慮がどこにも入っていない。	行政資料として健幸都市に関する資料を展示することや、図書館内に「健幸Spot」を設置するなど、様々な手法を検討していきます。
26	(ご意見) 投資対効果は市ではなく、これを使って活用する市民が課題を見つけ引き出すもの。図書館の主体は市民であり、それをどう使うかということに図書館や行政が協力するものである。高齢者・障がい者への配慮も決して市の職員だけが頑張るのではなく、そのような方を支える方をどう育成するかというのも地域課題への解決になると思う。 7月末までに全てを決めるのは無理があると思う。図書館は発展するものであり、使っていくうちに「こちらのほうが良い」というのが必ず出てくるはずである。直せないような設計にしてしまう範囲をなるべく抑えておくべき。 市民が自分で課題を見つけてやっていくということが、図書館づくりをきっかけにして広がっていくということが非常に重要である。 地域館と本館・中央館の問題について、中央館が出来ていく原点は地域をどう支えるか、から出発していたはずである。中央館には充実した蔵書やサービスができるということもあるが、現在地域館でも様々なサービスを行っているので、そういうものをどう引き出ししたり分担したりするのかを、市民と一緒に考えていくことが非常に大事だと思う。 単に新しい図書館ができるのではなく、地域館を支える中央館、将来にわたって変化にも対応でき、新しいコンセプトを持った、地域の課題を市民自身が考えて解決していく舞台である。中央公園も含めて市民が主役であり、市民が活躍する舞台である。その舞台を支えるのが図書館やパルテノンの職員の方々であると思う。市が何をやってくれるのかではなく、市民自身が何をやるのか、というのが非常に大事。	